

中経 論壇

経営支援NPOクラブ理事
吉田 仁



飲食店でコーヒーはもちろ
 ん、紅茶やウーロン茶は有料
 なのに、緑茶にお金を払う人
 はまずいない。緑茶は、サー
 ビス品として日本人の生活に
 それだけ溶け込んでいるとい
 うことだろう。しかし、もど
 もとお茶は、中国で葉として
 飲まれ、西欧に渡っては、非
 常に高価なものとして貴族階
 級に好まれた。お茶にかかる
 税金の高さは、アメリカ独立
 戦争の引き金になったほどで
 ある。

日本の茶道は、わび・さび
 の心と結びつき、日本人の精
 神文化の根幹をなし、芸術分
 野にも深い影響をもたらした。
 岡倉天心は日本の伝統文
 化として、茶の湯を海外に紹
 介したが、一般生活の中に広
 く根付いたのは、大正末期か
 ら昭和初期にかけてのよう
 である。お茶が大衆化したのは、
 つい最近のことなのだ。

緑茶の飲み方としては、団
 茶、抹茶、煎茶と変遷し、茶
 の湯は抹茶の飲み方である。
 現在の煎茶をもって、「日本
 の真心」を伝えていくことと
 している人に出会った。宮城原

思いやる心

塩釜市で矢部園茶舗 地間屋、料理人の芽生会、ポ
 を営む矢部亭社長で トル工場、茶匠の協力により
 ある。茶樹の生産農 出来上がったという。矢部社
 家の将来をも考え、 長のお茶に対する姿勢を見る
 良質な茶葉に正当な と、まさに「一茶入魂」の心
 評価を与えたいとの 意気を感じる。

思いが出発点とい 天心の『茶の本』でも、茶
 う。その茶葉から作 道の神髄の説明は、禅や道教
 ったお茶を心を込め の思想、中国の文人の作品に
 て淹(い)れ、嗜 よるところが多く、日本の伝
 (たしな)む人との 統文化は、中国およびその経
 出合いを楽しむ。矢 路となった朝鮮半島との深い
 部園茶舗では、訪れ つながりの中で成り立ったこ
 たお客さまに、一輪 とを物語る。日中韓は、文化
 の花を添えて一服の 風土において深い関係を有す
 茶を出す。それは、 るにかかわらず、政治状況に
 日本の心を映す、ま より、それぞれの民間レベル
 さに煎茶による茶の の友好関係まで齎かされるこ
 湯である。 とがあった。特に、昨今の日
 良質な茶を多くの 韓関係の状況は悲しむべきこ
 人に味わってもらい とである。

おいしいお茶をゆつくり味
 わいながら、西国の長い文化
 交流に思いを寄せ、互いに思
 いやりの心を持つことによ
 り、矢部社長の言う「千服一
 隅」の関係が、民間レベルで
 早く戻ることを望むものであ
 る。

「日本の真心」としてのお茶